



タイプC：継続

「学生団体が作製するTシャツを環境に配慮したTシャツに！」

「捨てる」から「循環」へ。

～ 学内常設『回収ボックス』で創る、
キャンパスの新しい当たり前 ～

経営学部 野村ゼミ ふくのきもち



目次

1. 継続プロジェクトの概要
2. 活動から得られた気付き
3. 継続理由・目的
4. 展望
5. 助成金使途
6. 参考文献



01

継続プロジェクトの概要

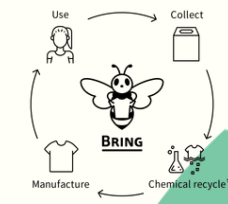


野村ゼミ「ふくのきもち」プロジェクト目標

『学内で衣類が循環し続ける

仕組みをつくること』

大学のカーボンニュートラルに貢献



アップサイクル工場へ



(株)JEPLAN

回収された衣類は同社の工場分解され、新たな製品に100%利用可能な素材に。廃棄焼却されてしまう衣類の削減が実現。

Tシャツ製作

GHG排出量の計測が可能な環境配慮型Tシャツを作製。
(株)JEPLANの再生ポリエステル生地を採用し、ゼミ生がデザインを提案。



販売

大学生協と連携しTシャツを販売。学生が店頭立ち、環境に配慮した製品であることをアピール。



回収

(株)JEPLANと協働し、学内に衣類回収ボックスを設置。衣類から衣類を生み出す大学発の循環を構築。



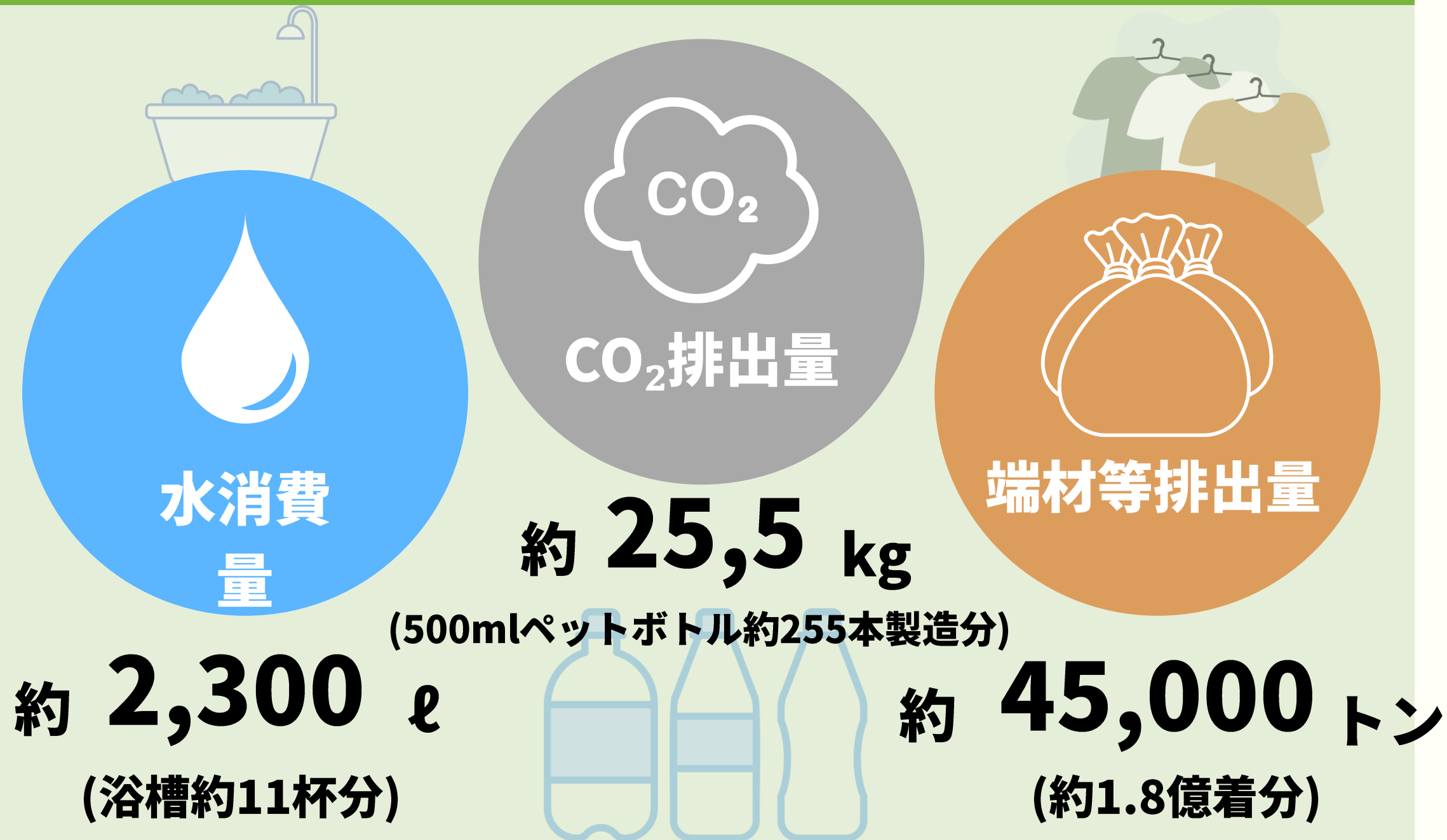
広報・意識啓発

SNSを活用して、製品の宣伝や環境問題に対する意識啓発を発信。環境問題解決のために、身近なことから行動を起こす重要性を伝える。



服の環境問題：1枚の服にも、こんなに資源が！

【製造段階の環境負荷（Tシャツ1枚あたり）】



現状の改題



継続プロジェクトの概要

「学生団体が作製するTシャツを環境に配慮したTシャツに！」



第2回SDGsグッドプラクティスタイプB 優秀賞 プロジェクトの流れ

創大祭等の
イベントTシャツに着目



Tシャツ作製に参加する
学生団体募集

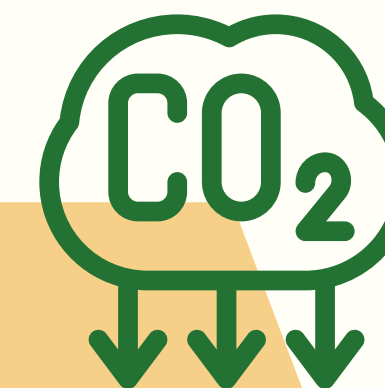


再生素材を使った
環境配慮型Tシャツを採用

助成金活用



GHG計測方法のレクチャー
CO₂排出量の計測

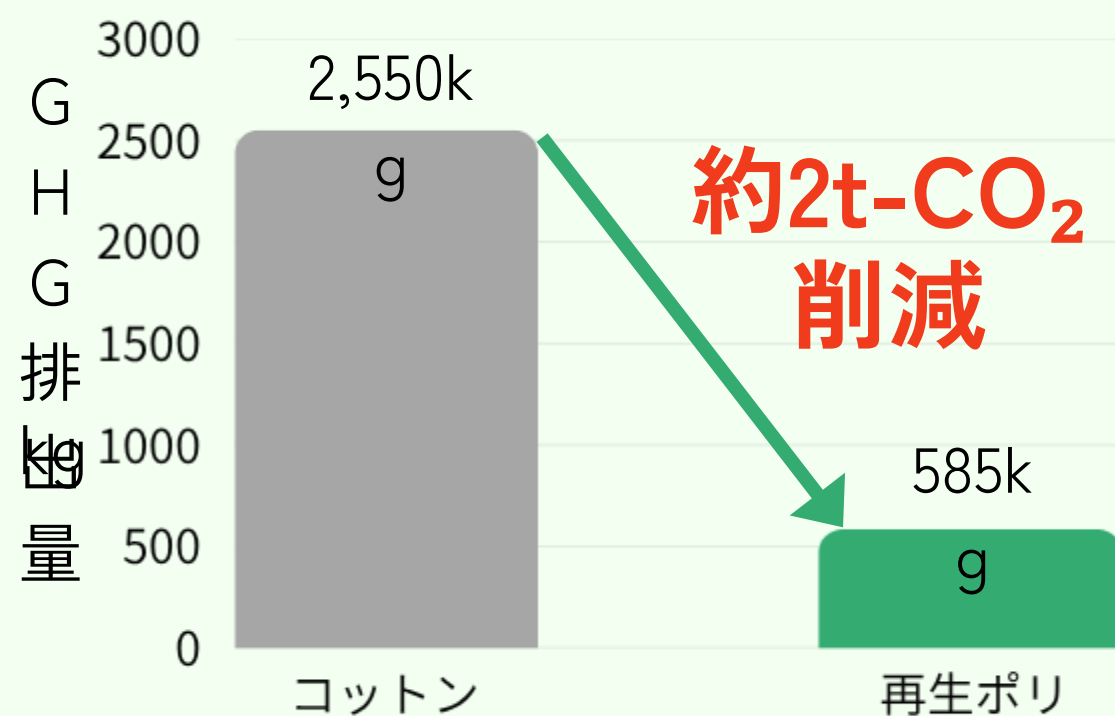


創価大学の
カーボンニュートラル
への貢献
+
学生の
環境意識向上

継続プロジェクトの成果

①大学のカーボンニュートラル推進

作製されたエコTシャツ
100枚当たりの
GHG排出総量削減効果

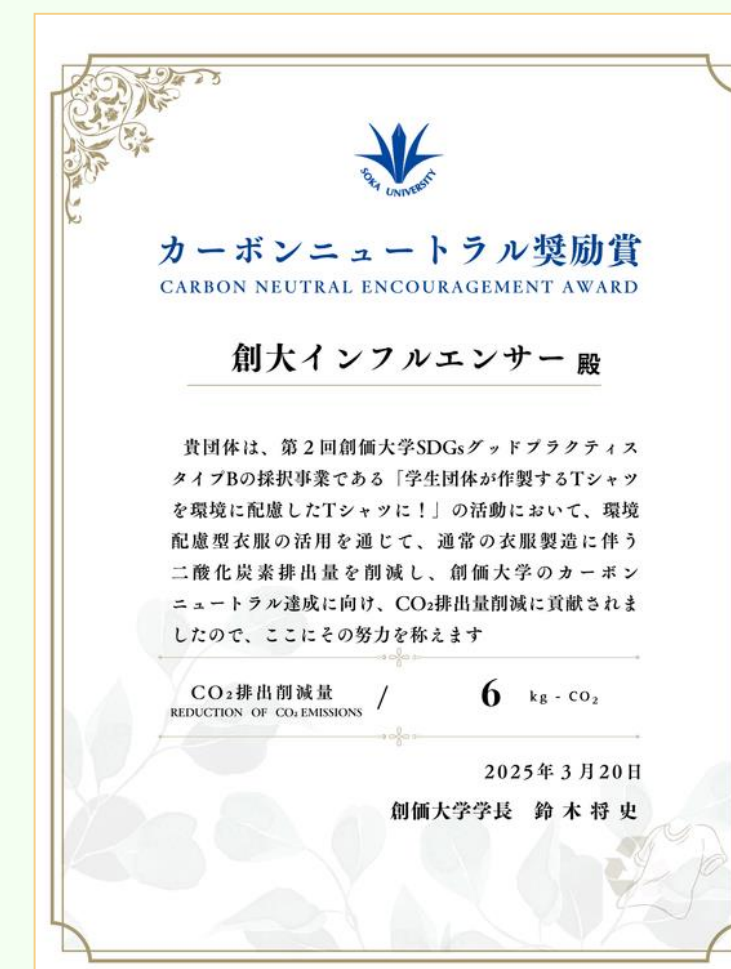


②計測方法の学習会を実施

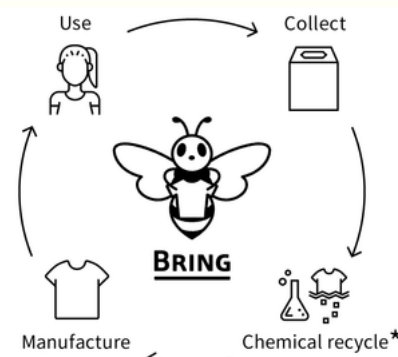


レクチャーの様子

③カーボンニュートラル奨励賞授与



現在の活動 —53期生の取り組み—



Bringのアップサイクル生地を活用したTシャツ

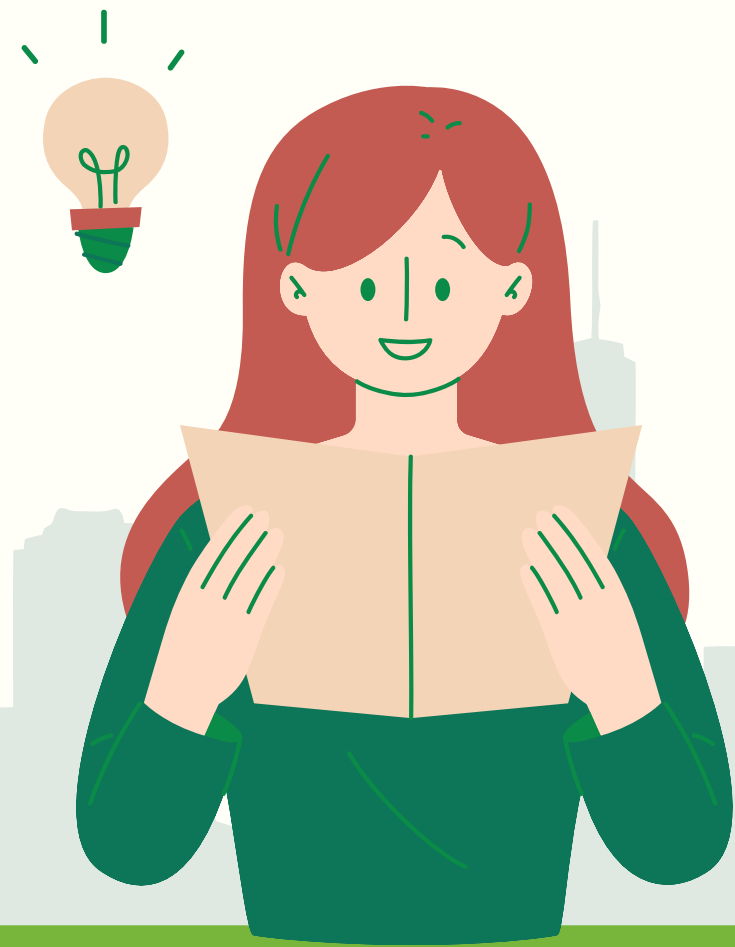
「新世紀橋」をモチーフにした エコTシャツを販売



学生ホールで販売している様子

02

活動から得られた気づき



活動から得られた気づき

CO2排出量
大幅削減!
持続可能な
キャンパスへ!

【課題】：着る機会が少なく
捨てられる



イベントが終われば、
タンスの奥へ。
最終的にはゴミに...

回収して
リサイクル!

【解決策】：回収生まれ変わる
エコな素材で再生！CO₂も削減



回収



エコなTシャツ



03

繼續理由 · 目的



これまでの活動から見えた課題



この課題を構造的に解決する必要がある

継続理由と目的：着なくなった服が、また服になる

着なくなった服が、また服になる。



BRING Technology™
服から服へ、循環するリサイクル

- 何度でもリサイクル
- 石油に頼らない
- 服がごみにならない

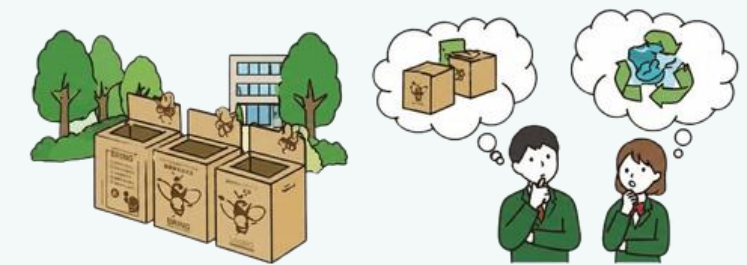


回収ボックスを通して、学内で
『服から服をつくる』循環を実現!

▼学内でのアクション 回収ボックスから始まる循環



- 大学内に回収ボックス設置
- 学生の環境意識を高める



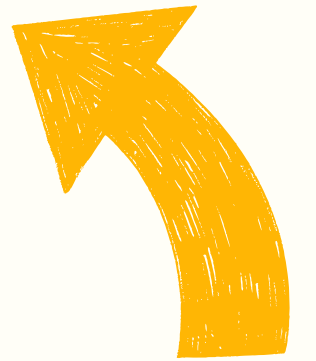
継続理由と目的：BRINGのプロジェクトに参画



環境保護へ貢献！



CO₂排出量を
49%削減↓
※石油由来のポリエステル
樹脂製造に比べて

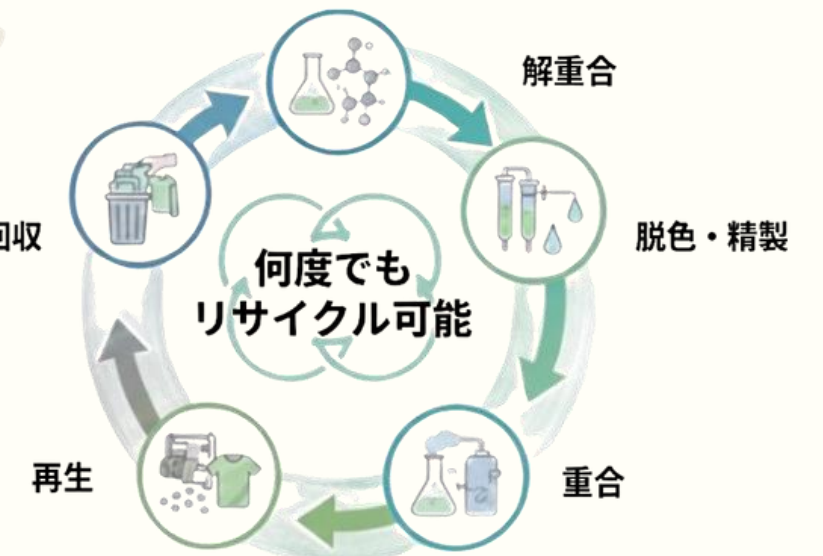


持続可能な未来へ

BRINGのプロジェクトに参画



衣類回収



04

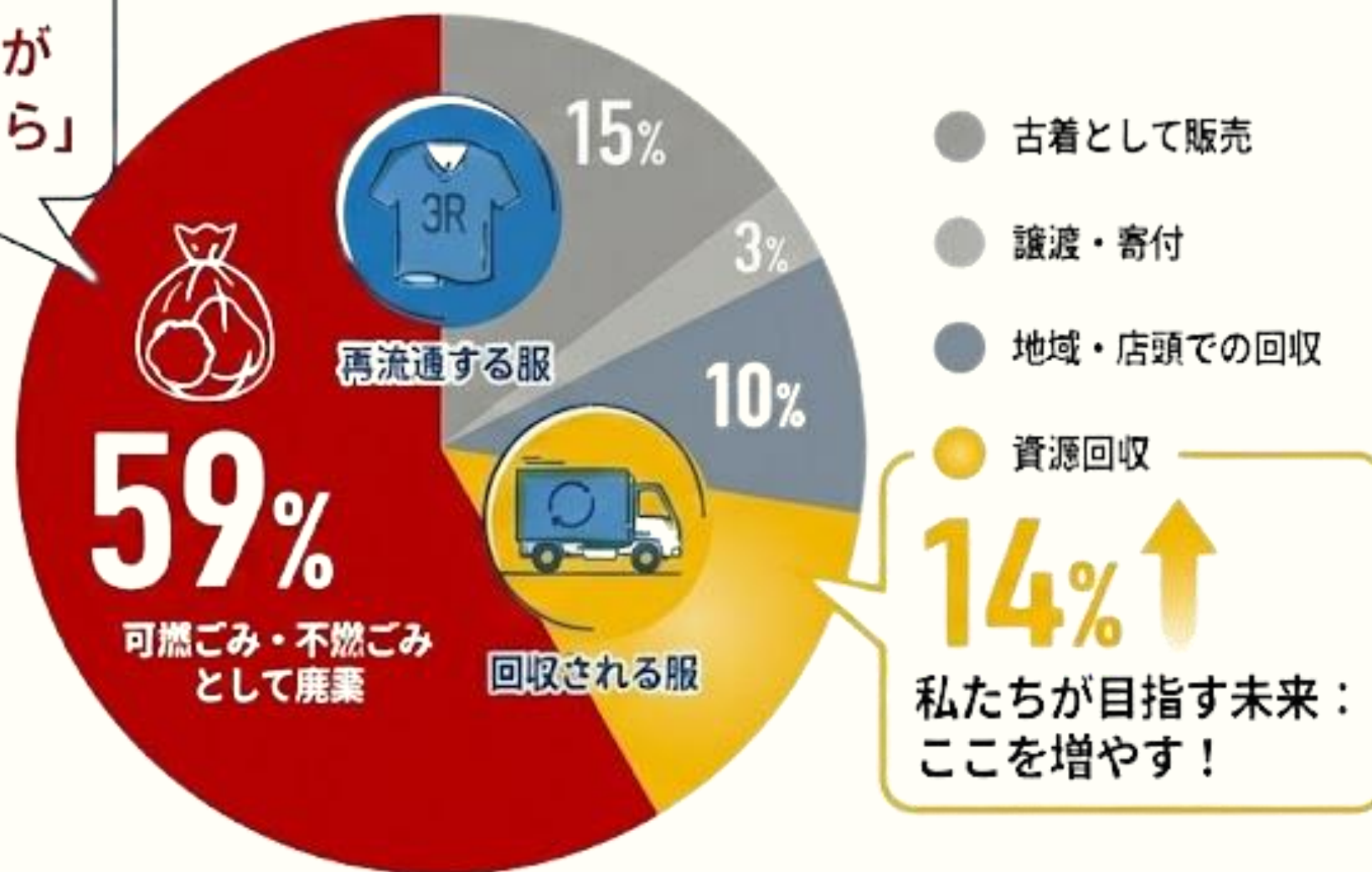
展望



衣類の約6割が「ゴミ」として廃棄される現状

服を手放す手段の分布

最大の理由：
「手間や労力がかからないから」



59% 
ゴミとして廃棄

14% 
資源として回収

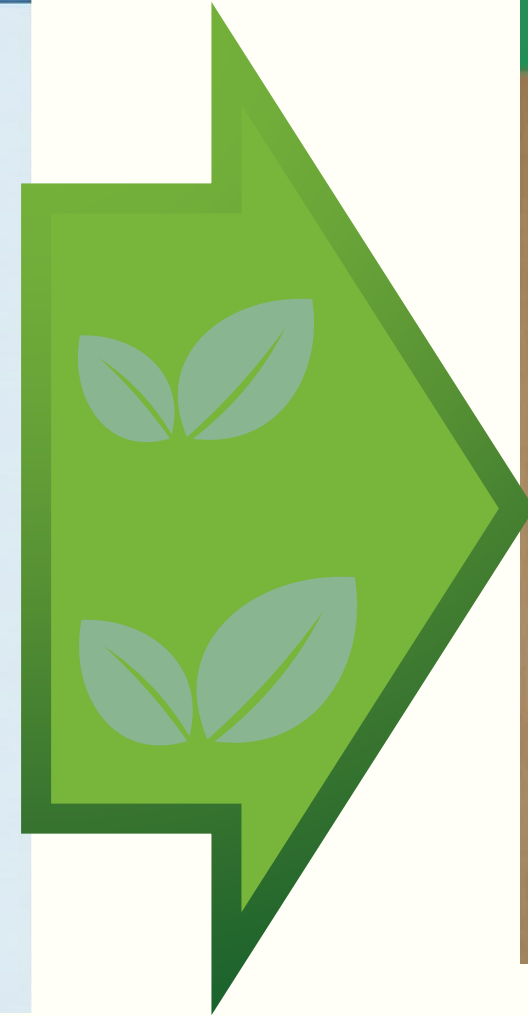
14%↑
私たちが目指す未来：
ここを増やす！

展望：回収ボックスの常設化と行動の定着

Before: これまでの課題



着なくなった服が、ゴミになってしまう
(これまでの課題)



After: これからの展望



服の回収を大学の当たり前の光景に！

服の回収を大学の当たり前前の光景に！

行動の定着と成果



① 学生への意識啓発：環境問題を自分事に



② 衣類の環境問題ゼロ：学内から廃棄物削減



③ CO₂削減：環境への大きな貢献

回収ボックス：設置場所候補



回収 & BRINGへの送付



私たち野村ゼミのメンバーが
責任を持って回収し、
BRINGへと届けます！

実施計画



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
回収ボックス設置 (5カ所)	●————●							
回 収		●————●					●	
啓発活動	●————●							●
Bringへの送付 (溜まり次第都度)					●————●			●————●

参考文献



[1]環境省,サステイナブルファッション

https://www.env.go.jp/policy/sustainable_fashion/

[2]環境省,ファッションと環境の現状

https://www.env.go.jp/policy/sustainable_fashion/about/

[3]Recycling Technology – BRING

<https://bring.org/pages/recyclingtechnology?srsltid=AfmBOoqDuSalzKVt2ORINdkDXq9oZx96naHSQKm0jX6kKFTi5Mebdpan>

[4]服の回収 - BRING

https://bring.org/pages/recycle?srsltid=AfmBOorGqQ_vcbU08LEv3w2uOq5pSLNYKuLcwz4MsMdF67HJMexicVzv



ご視聴ありがとうございました。